

早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)
バックエンド問題研究会
「高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」
第13回TF研究会 議事録

日時：2019年3月1日（金）17:00～19:20

会場：早稲田大学早稲田キャンパス 19号館 713 会議室

記録：山田美香 + 吉田 朗

出席者(敬称略)：

研究会メンバー

松岡俊二 (研究代表)	早稲田大学国際学術院 (アジア太平洋研究科)・教授
勝田正文	早稲田大学理工学術院 (環境・エネルギー研究科)・教授
師岡慎一	早稲田大学理工学術院 (先進理工学研究科)・特任教授
松本礼史	日本大学生物資源科学部・教授
黒川哲志	早稲田大学社会科学総合学術院 (社会科学研究科)・教授

研究協力者

竹内真司 日本大学文理学部・教授

MRIプロジェクト研究協力者

笹尾英嗣	日本原子力研究開発機構・部長
寿楽浩太	東京電機大学工学部・准教授
藤村 陽	神奈川工科大学基礎・教養教育センター・教授

事務局

李 洸昊	早稲田大学環境総合研究センター・次席研究員
吉田 朗	早稲田大学社会科学研究科・博士後期課程
CHOI Yunhee	早稲田大学アジア太平洋研究科・博士後期課程

MRIプロジェクト RA

山田美香 早稲田大学アジア太平洋研究科・博士後期課程

報告 1: 第2回欧州調査速報

- ・欧州調査の概略報告
- ・詳細については、4月初旬にWRRI サイト記載予定

討論:

松岡：今回の視察で、英国・仏国両国とも停滞 (stagnation) を強く感じた。英国は、2003年・2005年の熟議のプロセスから先に行けない行き詰まりであり、フランスは、市民サイドは、言いたいことは言い尽くし、既に reversibility で議論が付いており、今更、何を議論するのかという曖昧な状況である。

竹内：CNDP (公開討論国家委員会 : Commission nationale du débat public) の次の会議はいつ開催となるのか。

松岡：次が3回となるが、6月か7月を予定しているようだが、政権基盤も揺らいでおり、流動的であろう。

竹内：第3回の論点は何になるのか。

Yunhee：地層処分を含めた他のオプションについての議論は依然として残っているが、政府関係者や事業実施者は、オプションについての議論はすでに決まっているという立場が強い。したがって、オプションについてどのような議論が行われるか不透明な状況である。今後、再処理の方向性および使用済燃料の管理に関する議論となるようだ。

松岡: CNDP は、90年代に民主主義的なプロセス強化として設置され、熟議型のプロセスを作っていくが、代議制との兼ね合いがうまくいっていない。議員は、熟議型のプロセスの利点を理解しておらず、補完するような考えになっていないので、バランスが取れていない。市民も、なぜ自分たちの議論を認めないのかと、対立的な状況であり、まだしばらく時間がかかるように思われる。

報告 2: MRI プロジェクト「高レベル放射性廃棄物(HLW)の地層処分をめぐる社会的受容性と可逆性」について

- PJ 全体について
- 事前説明会について (当日スケジュール、説明内容・資料)
- 第1回 HLW 市民アゴラについて (当日スケジュール、専門家の説明内容、説明前後のアンケート (枠組み、質問票、分析方法))
- アンケートについて (指摘箇所一覧)
 - 全体
 - てにをは、誤字脱字、表現については見直しをかけ、回答者が設問の解釈・捉え方に違いが起これないように、表現が一義的になるよう修正する。
 - 専門家は、アンケート項目を全て網羅する必要はない。どのような方法で分析をするのかということ共有することを目的とし、本日、アンケート票の検討を行った。
 - 質問 1 今回は、政策的選択して頂くこととし、3 択とする。(その旨、事前説明で説明をする)
 - 質問 4 “人間は完璧でない” はトル。
 - 質問 5 安定性の問いであることから、“地層処分” → “地層処分場” に訂正。
 - 質問 6 「法定化されている」 → 「法定化されている」
 - 質問 8 「国民に情報を公開」 → 「国民に十分に情報を公開」 : どの程度なのかかわからず、考えがかわってくる。
 - 質問 9 「実行性」 → 「実現可能性」
 - 質問 12 「地層処分」 → 「地層処分場」
選択肢⑤ 「実効性」 → 「実現可能性」
 - 質問 13 地域間公平性を問う設問だが、「不公平」の分かりやすいように感じる。→ 表現の見直しをする。
 - 質問 14 サンプル数も限られたアンケートなので、少し丁寧に回答をして頂くこととし、政府・実施機関
 - 質問 15 関・規制当局、専門家であれば、研究・大学機関、NGO 等と掘り下げて問うのがよいだろう。
 - 質問 17 説明前後での知識量の変化が期待できるのか。→ 知識を問う設問を再検討する。
 - 質問 18 質問 7 との重複するように受け取れるが、市民参加のプロセス・既存の代議制の関係を、Political Efficacy(政治的有効性感覚)を問うようにすると、研究関心とも一致するのではないかな。
 - 質問 19 「処分」とすると、「埋設なのか？」と捉え方の違いが出てくる可能性があり、表現を工夫する必要がある。
「私たちの世代」としたとき、どのくらいの世代を想定しているのかを問い、併せて、「自交代」についても同様の問いをすると、どのくらいの時間枠で考えているのかわかる。
 - 質問 21 (選択) 説明前後での変化が期待できるのか。→ 設問・選択肢の表現の見直しをする。

討論:

松岡: 申請書から 2 点変更をした。1 点目は、事前説明会で地層処分の基本説明を、市民アゴラで説明会を前提として各専門家からのそれぞれの立場で市民に説明をすることである。2 点目は、市民の意識変化をアンケートで測ることにした点である。予定していたヒアリングは全体討論で実施する。

事前説明会の目的は参加者同士のアイスブレイキングと地層処分の基本説明にある。地層処分の基本的な説明を、日本と諸外国の動向 (松岡)、地層処分の概要 (竹内)、地層処分の社会的受容性 (松本) が 15 分でおこなう。第 1 回市民アゴラは、笹尾・藤村・寿楽の順番で市民に説明をする。当日の資料は、PPT で 30-40 枚の範囲でお願いしたい。市民が地層処分を理解できていることを前提に説明をお願いしたい

竹内: 市民の方で確認したい事が出た場合、質問を受け付けられないのか

松岡:第1回は質問を受け入れない。但し、進行の改善点に関する意見は受け付ける

笹尾:タイトルが地層処分の必要性では、地層処分の可否が議論メインになってしまう恐れがあるので、実現可能性とか技術的成立性の方が良いのではないのか。必要性では、趣旨と違う報告に議論が行く可能性もある気がする。

松本:原発止めるとか突飛な議論になってしまうので、原発が今後稼働するとして、話を進める必要があるのではないのか。核燃サイクルの話をする、話が拡散してしまうのではないのか

寿楽:サイクルの是非まで広げるのはどうかと思うが、質疑応答無しなので、必要性の議論を抜くと、他の話になってしまうので、気をつけたほうがいい。

笹尾:地層処分ありきで捉えるのか

松岡:地層処分ありきではない。ただ、最終処分法で地層処分となっており、中々進まない現状がある。必要性の論拠がどこまで出来るのか。そこから、経済性のお話が出るのではないのか。必要性の話から入って、問題点を指摘するほうがロジカルではないのか。

藤村:技術的成立性という言葉が、市民に警戒されるのではないのか。

松本:必要性に違和感があるならば、推進の立場からと言う表現がよいのではないのか

寿楽:私はこのタイトル案でよい。

竹内:藤村さんのタイトルは、「慎重な立場から」でもよいのではないのか

藤村:批判的な立場からでよい。ただ、スライド等に JAEA のロゴがあると、個人の見解に聞こえない可能性があるがあるので、注意した方がよい。

笹尾:これは研究者の立場でお話するというだけでよいのか。

松岡:問題ない。一人の専門家の立場からお話をいただきたい。笹尾さんは、竹内先生のお話を一歩進める感じで準備して頂きたい。また、立場は、推進(笹尾)、慎重(藤村)、地層処分をどう考えるのか(寿楽)とする。説明資料の締め切りは、事前説明会資料は3月14日(木)、市民アゴラの説明資料は、3月20日(水)を〆切とする。次に、アンケートであるが、アンケートは番号を振って配布し、説明前・説明後同じものを実施し、都度回答後、回収をする。

竹内:アンケート項目は、専門家の説明の中に含まれるということになるのか。

松岡: 専門家は、アンケート項目を全て網羅する必要はなく、本日のアンケート票の検討は、どのような方法で分析をするのかということをも共有することを目的としている。

師岡:理工の学生の授業でも、放射能の理解は非常に難しい状況であり、参加をする一般の方には、理解し難いあのではないのか。40分の説明は、一般の方には緊張もある中、非常に長いのではないのか。

寿楽:松岡先生の事前説明の資料でも、一部議論になる内容も含まれているが、地層処分のフロー等の説明があるので、大丈夫であろう。

寿楽:アンケートが20分で終わるかどうかもわからない。

松本:終了時間は17時でなければならぬのか。

松岡：説明前アンケート後にも休憩を入れ、アンケートの時間を少し長くし、但し、17時で終了をするようにスケジュールの再構成をする。

寿楽：質問1の賛否は、3択でいくのか。国民性からすると、「③どちらでもない」を選ぶ人が多くなるので、「どちらかといえば」という5択にするほうがいいのではないかと。

松本：前回の研究会でも指摘をしたが、「どちらでもない」というのには、「わからないから、どちらでもない」と「わかっているから、決めきれずどちらでもない」の2つが想定される。この際、「どちらでもない」をやめて、4択とするのはどうか。

師岡：3択がいいと思う。質問17の知識量をはじめに問えば、それはわかるだろう。

寿楽：その質問をはじめに持ってくると、萎縮効果が出てしまうので、それは、相応しくない。

松岡：難しい判断となるが、「どちらでもない」は、ある程度いると予測し、今回は政策的選択をしてもらおうということで、3択とすることとしたい。

藤村：質問19での「私たちの世代で処分する」という表現は曖昧であり、処分そのものを考え、処分とは埋設か、捉え方の食い違いの可能性があり、何を問うているかが明確ではない。

松岡：回答者が設問の解釈・捉え方に違いが起こらないよう、表現が一義的になるよう修正する。

寿楽：折角の機会なので、信頼・市民参加・世代間公平性のところは、少し掘り下げて質問をするのもいいのではないかと思う。先ほどの欧州視察報告や松岡先生の説明資料で、信頼が重要ということであれば、行政も実施機関・規制当局、市民団体、NGOと分けて問うほうが、説明を聞いた後で市民の回答も分散してくる可能性もある。また、「私たちの世代」「将来世代」というときの「世代」がどの範囲を指すかも、問うておくといいと思う。

今後の予定

2019年

3月7日(木)

第8回原子力政策・福島復興シンポジウム

3月14日(木)

事前説明会の説明資料提出期限

3月16日(土)

市民アゴラ事前説明会

3月20日(水)

第1回HLW市民アゴラでの専門家説明資料提出

3月23日(土)

第1回HLW市民アゴラ

3月31日(日)

科研Bプロジェクト終了

4月24日(水)

MRI研究プロジェクト中間報告会

5月12日(日)

第2回HLW市民アゴラ

7月20日(土)

第3回HLW市民アゴラ